4 県共通設問による尿沈渣フォトサーベイを実施して

青森県における白血球判別問題の正解率の動向と重要視したポイント

◎坂牛 省二[1)]、高杉 洋子[2)]、小野 篤史[3)]、貝田 奈津子[4)]、下川 波歩[5)]、阿部 紀恵[6)]
平内町国民健康保険 平内中央病院[1)]、公益財団法人 鷹揚郷腎研究所 弘前病院[2)]、済生会新潟病院[3)]、地方独立行政法人 市立秋田総合病院[4)]、岩手医科大学附属病院[5)]、八戸赤十字病院[6)]

【はじめに】H30 年度も 4 県共通設問尿沈渣フォトサーベイが実施されたが、青森県では平成 28 年から判別に際して重要視したポイントを答えていただくアンケート調査を実施している。また、青森県のみの設問も出題している。白血球判別問題での正解率と重要視したポイントについて考察した。【方法】白血球判別問題は H28 年度共通設問 10（28-10）好中球、共通設問 11（28-11）単球および青森県設問 15（28 青-15）好酸球が出題されており、平成 30 年度は共通設問 7 （30-7）好酸球、青設問 14（30 青-14）好中球が出題された。各県正解率の県差の有無を Fisher’exact test を用い有意水準 5%で確認した。アンケートから正解施設と不正解施設の重要視したポイントを比較検討した。【結果】1.アメーバ状好中球:28-10 では青森県の正解率は 58.1%、秋田県 81.6%と県差を認めた。また 30 青-14 では正解率 74.5%と正解率が向上していたが、尿細管上皮細胞とした施設が H28 に 22.6%と H30 が 21.6%と同程度あった。正解施設での重要視したポイントは細胞質辺縁構造がアメーバ状が最も多く、次いで白血球反応陽性や低比重であった。尿細管上皮細胞とした施設では、細胞質辺縁構造が棘突起状やアメーバ偽足状、角錐・角錐台状とポイントが分散し、定性結果は重要視されていなかった。2.単球：28-11 で青森県の正解率は 46.8%、秋田県 55.2%、岩手県 22.7%および新潟県 53.7%と低正解率であった。正解施設の重要視したポイントは核のくびれ、腎形、楕円形で次いで細胞質辺縁構造の綿菓子状、不明瞭であった。異型細胞とした施設の重要視したポイントは、N/C 比大、クロマチン増と核形不整など核のみに集中していた。3.好酸球：28 青-15 は正解率 82.3%であった。30-7 では青森県 72.5%、秋田県 82.5%、岩手県 59.2%および新潟県 67.8%であった。重要視したポイントは、H28 、H30 とも黒色顆粒を有することであった。誤答した施設は顆粒成分を重要視しておらず細胞質や染色性や核などにポイントが分散していた。【考察】白血球判別問題では県差を認めるなど青森県の弱点といえる。重要視したポイントのアンケート調査から白血球の特徴を捉え、比較し定性結果も加味し判断することが鑑別技術の向上に繋がると考える。連絡先 017-755-2131